

# 発掘された大山山麓の中世

公益財団法人かながわ考古学財団

松葉 崇

## 1. はじめに

近年、大山山麓では、新東名高速道路、厚木秦野道路、県道 603 号の建設事業が集中的に実施されている。これに伴う事前の埋蔵文化財発掘調査が行われ、旧石器時代～近代まで幅広く遺跡が発見されている。特に中世は、これまで知られていた文献の歴史について、考古学から検証することが可能となってきた。今回は、この新しい発掘調査成果を紹介し、大山山麓に広がる中世について、読み解くことにする。

なお、発掘調査は現在も継続しており、今後の出土品等整理作業によって、解釈が変更になる可能性がある。

## 2. 大山山麓の中世史と謎

### a. 大山と武士

- ・源頼朝は、大山阿夫利神社に刀、大山寺に田畑を寄進。北条政子が実朝を出産の際には、大山寺・<sup>りょうぜんじ</sup>霊山寺（日向薬師）・比々多神社に神馬を奉納。
- ・北条政子は、頻繁に大山を訪れ、大山寺や<sup>じょうぎょうじ</sup>浄業寺を参拝し、亡くなった頼朝を供養するため、<sup>じょうぎょうじ</sup>浄業寺を建てる。
- ・足利尊氏は、大山寺に寺領を寄進し、堂宇の造営をする。
- ・鎌倉公方や関東管領も厚く保護する。
- ・小田原北条氏は、山岳修験者の武力と情報収集能力に着目し、大山修験者勢力を取り込む。天正 18 年（1590）の小田原征討にも参加させる。
- ・徳川家康が大山寺の改革を行い、家光も大山寺の再興に力を注ぎ、春日局がたびたび大山を訪れる。

### b. 糟屋荘と御家人糟屋氏

- ・平安時代末、大山山麓では<sup>かすや</sup>糟屋荘が成立し、この荘司が糟屋氏。
- ・糟屋氏は荘内に屋敷を構えていた。
- ・<sup>ありすえ</sup>糟屋有季が鎌倉御家人として活躍。建仁 3 年（1203）、<sup>ひき</sup>比企の乱で比企方に加勢し、敗れて自害する。
- ・承久 3 年（1221）、承久の乱で糟屋有季の子が北条義時側と敵対し、討ち死にする。
- ・以後、糟屋氏はほとんど史料に登場せず、鎌倉時代末になって散見される程度。  
⇒糟屋氏は比企の乱と承久の乱で没落した。とみるのが一般的。
- ・<sup>かみかすや しめひききた</sup>上粕屋・<sup>しめひききた</sup>引北遺跡では、方形居館が発見された。「糟屋荘政所」に相当すると推測されている。

### c. 太田道灌暗殺の舞台―扇谷上杉氏の糟屋館―

- ・扇谷上杉氏の屋敷は糟屋にあり。
- ・扇谷上杉氏の糟屋館は、「立原」（館原）など地名、舌状台地の付け根という立地、道灌ゆかりの<sup>とうしょういん</sup>洞昌院とその墓の存在などから、御伊勢の森が推定地とされてきた。  
→現産業能率大学での発掘調査の結果、この地が糟屋館である痕跡は薄いとされた。  
→戦国時代、上粕屋一帯は、「秋山郷」と呼ばれ、「糟屋」と呼ばれたのは下糟屋一帯であった。  
⇒現在では、糟屋館が御伊勢の森一帯に所在するという説は、現在はほぼ否定されている。
- ・下糟屋にある丸山城とその周辺の発掘調査で城郭関連遺構が検出された。
- ・丸山城の周辺は、舌状台地の先端に位置し、交通の要衝という立地。

⇒この丸山城を糟屋館とする説が支持されている。

⇒障子堀の発見や16世紀代の遺物の出土など小田原北条氏との関連も示唆されており、不明な点も多い。

#### d. これまでの成果と大きな2つの謎

- ・文献史を中心に歴史が語られてきた。
- ・糟屋荘司糟屋氏の屋敷はどこか。
- ・扇谷上杉氏の糟屋館は丸山城か。

### 3. 中世前期の屋敷

#### a. 子易地区の遺跡群（子易・中川原遺跡、子易・大坪遺跡、上粕屋・子易遺跡、上粕屋・子易2遺跡）

##### ◎鈴川左岸の屋敷－上粕屋・子易遺跡－

- ・掘立柱建物が多数（36棟以上）発見される。
- ・建物群の東西端では、堀状遺構（大溝）が発見される。
  - 東：上幅約4m、深さ約2m、西：上幅約7m、深さ約2.5m。
  - 堀状遺構の間は約180m。
  - 屋敷の東西を区画するだけでなく、防御も兼ねていた可能性がある。
- ・周溝状遺構が3基発見される。
  - 集石墓？
- ・ふいごの羽口や鉄滓が出土する。
  - 屋敷地内で鍛冶を行った。
- ・12世紀後半から13世紀前半。

##### ◎鈴川右岸の屋敷－子易・中川原遺跡－

- ・20棟以上の掘立柱建物が発見される。
  - 大型建物も含み、立て直しによる拡張も確認される。
- ・馬小屋と考えられる竪穴状遺構、建物を区画する溝や建物に付属する塀や柵、井戸なども発見される。
- ・屋敷のすぐ脇には、古墳時代後～終末期の古墳が発見されている。
- ・屋敷の奥に所在する寺院との関連。
- ・石敷道路状遺構（幅1.0m～1.5m）が発見され、上粕屋・子易2遺跡の道路状遺構と関連するか？
- ・13世紀前半から14世紀代。

##### ◎石敷道路状遺構－上粕屋・子易2遺跡－

- ・幅3.6mで、大型の河原石を縁石として配置し、中は人頭大の石を敷き詰め、さらに砂利を突き固めている。
- ・石敷道路状遺構の南東には、石を使わない道状遺構も発見された。
- ・大山への参道、先の屋敷を抜け寺院へ至る参道などが推測できる。
- ・13世紀前半から14世紀代。

##### ◎小括

- ・中世前期の屋敷が子易地区の鈴川兩岸に広がっている。
- ・左岸がやや古く、その後右岸へとの変遷も想定されるが、併存していた時期もあるようだ。
- ・左岸では、屋敷が堀状遺構（大溝）で囲まれていた。

- ・右岸では、鈴川から屋敷地、水田、池、寺院建物、山と続き、谷戸全体が利用されている。
- ・上粕屋扇状地の付け根にあたり、背後に大山、前面に相模平野が広がる好立地。
- ・鎌倉を除いた神奈川県内の中世前期の発掘調査例を見ても、遺跡の規模が突出している。
- ・かなりの有力者と考えられ、糟屋氏関連の屋敷か。  
→ただし、遺物の量は少ない。

#### b. <sup>かみなりまつ</sup>神成松遺跡

##### ◎建物群と方形の区画

- ・9棟以上の掘立柱建物、L字状に配置されるパターンの居館。  
→空白地帯は、広場として機能か。
- ・掘立柱建物の南側で竪穴状遺構が発見された。
- ・それら建物を方形に囲繞する溝が発見された。  
→方形の区画は、1辺が70～80m。溝幅は2m以上。
- ・方形区画の南では、では道と溝が発見された（第2・7・8地点）。  
→現在の道路は、中世にまで遡る。
- ・13世紀～14世紀前半。

##### ◎馬小屋

- ・第2・3地点で大型竪穴状遺構が発見され、馬小屋と想定される。
- ・第2・3・7地点で馬の骨が多数出土している。
- ・鎌倉時代から利用されている。

##### ◎谷の耕作地

- ・建物の東側に位置する谷戸内低地（第6・8地点）では、耕作痕が発見されている。

##### ◎小括

- ・上粕屋・子易遺跡から東方約800mに位置する。  
→子易地区の遺跡群から下方に位置する遺跡。
- ・子易地区の遺跡群と同時期の遺跡。
- ・かなりの有力者と考えられ、糟屋氏関連の屋敷か。  
→遺物の量は少ない。
- ・周辺では、「立原」、「マトバ」の地名が残り、扇谷上杉氏の上杉定正邸が近くにあるとされてきた。  
→御伊勢の森の発掘調査で、ほぼ否定される。  
→中世前期の屋敷跡が、後世に上杉定正邸として伝承されたか？
- ・中世後期の遺物もみられるため、最終的な廃絶は、この時期まで下る可能性あり。

## 4. 中世前期の寺院

### a. 子易・中川原遺跡

#### ◎建物

- ・中央の大きな礎石建物と、その両側にやや規模の小さな礎石建物が並び、裏側にも掘立柱建物が並ぶ。
- ・中央の建物

周辺より 0.2~0.3mほど高い基壇上に建てられていた。

前面に向拝と四方に縁を有していた。

建物の周囲には浅い溝が掘られていた。

南北3間（約7.2m）、東西4間（約8.4m）。

立て直しを行っている。

・両側の建物

南北3間（約6.4m）、東西2間（5.8m）

左右対称の配置。

・中央の建物の背後でも建物が発見される。

### ◎墓所

・礎石建物と蔵骨器が発見された。

・集石墓が発見された。

・礎石建物と集石墓の間には、掘立柱建物が発見された。

・礎石建物の北側に位置する。

### ◎池状遺構

・建物の前面（東側）から発見された。

・規模は、東西約70m、南北約40m、深さ約5m。

・谷を堰き止める堰堤が発見された。

### ◎小括

・13世紀には造営されたと考えられ、下方（東側）の屋敷と同時期。

・瓦は非常に少ない。

・明治時代まで安楽寺が所在していた。

→安楽寺は、元龜年間（1570~1573）に創建したと伝えられる。

→本尊は、阿弥陀仏。

→史料が非常に少なく、よく分かっていない。

・今回の発見は、安楽寺より古い年代が想定される。

・安楽寺と関係するならば、本尊の阿弥陀仏（堂）を西方に配置し、東面に池を臨む伽藍が想定される。

→阿弥陀仏の居所である西方極楽浄土を表現した浄土庭園を意識し、池と仏堂の背後に山が位置する浄土の世界観を象徴しているのかもしれない。

## b. 上粕屋・和田内遺跡

### ◎石組み遺構

・石組み遺構が4基発見される。

2次C1号石組み遺構：溝の形。→排水溝

2次C2号石組み遺構：石は平坦な面を上にして長方形に並べる。→水場

2次C3号石組み遺構：粘土を貼り付けた長方形の基壇の中央に石が半円形に並べられていた。石組みの内側には、被熱した礫と炭化物層、焼土が混じる粘土層が堆積していた。→火処

4次C1号石組み遺構：外周にやや大きめの石を並べ、内側にやや小さめの石を並べていた。内側に木杭が発見され

ため、簡易的に木材で石を固定していた。→井戸

- ・遺構は13世紀後半以降か。  
→この時期は寺院であった。
- ・寺院で水源・火処・排水が一連の施設として使われるのは、湯屋か<sup>ゆや</sup>厨<sup>くりや</sup>（調理場）という。  
→火処の大きさから湯屋の可能性が高い。  
→ただし、これら施設を覆う建物は見つかっていない。

#### ◎墓域

- ・急な斜面をコの字状に掘り窪め、墓域を形成。
- ・多数の土坑墓が発見され、渥美窯の蔵骨器が発見された。
- ・壺は13世紀初頭の製品だが、周辺から見つかった遺物の年代から15～16世紀に利用された墓。
- ・斜面の墓域の下方では、火葬墓（集石墓）が発見された。
- ・中世墓の近くでは、「糟屋一族の墓」といわれる石塔群があった。  
→調査により、糟屋氏の時代（12～13世紀）ではなく、15～16世紀の石塔群。  
→寺院の歴代住職の墓。

#### ◎小括

- ・平安時代末に創建され、明治時代に廃絶した極楽寺の伝承地。
- ・調査成果で、中世寺院があったと考えられる。  
→発見されたのは、極楽寺の一部か。

#### c. <sup>じょうぎょうじ</sup>浄業寺跡

- ・中世寺院に直接関わる遺構は発見されなかった。
- ・中世瓦が多数出土した。  
→13世紀前半から14世紀中葉。  
→中世前期には寺院が存在していた。
- ・北条政子の建てた浄業寺と直接関係するかは課題だが、同時期の寺院利用が確認できたことは大きな成果。

### 5. 中世前期のその他の遺跡

#### a. <sup>にしとみおか</sup>西富岡・<sup>むこうぼた</sup>向畑遺跡（年報16）

- ・竪穴状遺構の焼土から、炭化柿、炭化穀物、屋根材が出土した。
- ・柿の放射性年代測定では、西暦1370年前後の結果が出る。  
→周囲の出土遺物も13世紀後半～14世紀代が中心。
- ・大山の子易付近一帯は、「子易柿」の名をもつ禅寺丸柿の産地であったという。

#### b. <sup>あわくぼ</sup>粟窪・<sup>はやしだい</sup>林台遺跡、<sup>あわくぼ</sup>粟窪・<sup>はやし</sup>林遺跡、<sup>あわくぼ</sup>粟窪・<sup>はやし</sup>林窪遺跡（年報18～22）

- ・台地から低地にかけて、掘立柱建物、竪穴状遺構、道状遺構、水場施設などが多数発見された。
- ・中世前期が主体のようだが、中世後期も利用が続く。

### 6. 中世後期の遺跡

#### a. <sup>ひがしとみおか</sup>東富岡・<sup>みなみみま</sup>南三間遺跡、<sup>ひがしとみおか</sup>東富岡・<sup>きたみま</sup>北三間遺跡、<sup>ひがしとみおか</sup>東富岡・<sup>ひがしのくぼ</sup>東之窪遺跡

- ・ 堅穴建物、井戸、溝がまとまって発見された。
- ・ 周囲からは鉄滓や羽口が多く出土した。  
⇒ 鍛冶関連の作業場。
- ・ 銭貨の鋳型と模鑄銭。  
⇒ 銭貨を鑄造できる有力者の存在。
- ・ 12 世紀後半から 16 世紀前半の遺物が出土する。  
→ 赤間産の四葉硯、猿形土製品、丹波壺。
- ・ 遺構は、14 世紀後半から 15 世紀代を想定。

#### b. <sup>かみかすや</sup>上粕屋・<sup>いしくらなか</sup>石倉中遺跡

- ・ 堀割形状の道路状遺構が発見された。  
→ 上幅 8～10m、基底部幅 4m、深さ 1～2m  
→ 道路を波板状凹凸面として突き固め、その上を何枚もの硬化面が作られる。  
→ 17 世紀前半に使用され、18 世紀前半には埋没する。掘削は中世末か。  
→ 「田村通大山道」に該当する。  
→ 別地点では、「青山通大山道」も発見され、中世にまで利用が遡る。

#### c. 西富岡・向畑遺跡

- ・ 道路遺構が発見される。  
→ 道路を波板状凹凸面として突き固め、その上に硬化面が作られる。  
→ 近世前半か中世末頃から使用されていた。  
→ 近世の絵図に描かれる。

### 7. 中世の村落

#### a. <sup>にしとみおか</sup>西富岡・<sup>なかじま</sup>中島遺跡、<sup>にしとみおか</sup>西富岡・<sup>なかじま</sup>中島 2 遺跡

- ・ 渋田川沿いの低地で、中世の水田が発見された。  
→ 水路・畦の発見。  
→ 植物遺体とプラント・オパール分析の結果、水田の土壌と考えられる。  
→ 中世前期から利用が開始され、現代まで続く。
- ・ 中世で水田範囲を拡張している。
- ・ 条里のような規則的なものではなく、地形に制約されつつも最大限に水田を営んでいた。  
→ 低地の微高地では、畑を営んでいた。
- ・ 近世絵図に描かれる水路や水田が発見された。
- ・ 河岸段丘上では、掘立柱建物が発見されている。  
→ 14 世紀後半～16 世紀。  
→ 中島は、武田信玄の従妹にあたる理慶尼<sup>りけいに</sup>が庵を構えた地として伝承されるが、直接関係する成果はない？
- ・ 河岸段丘上に住居を構え、下の低地で水田を営むという中世村落の風景を復元できる。

### 8. まとめ

- ・ 中世前期、大山山麓に遺跡が広がり、糟屋氏との関連が推測される。
- ・ 中世後期、街道沿いへ重要性が移ったか。

## 引用・参考文献

- 相川薫・丸山清志・原川雄二ほか 2020『西富岡・中島遺跡第3次調査 西富岡・中島2遺跡第4次調査 西富岡・長竹遺跡第6次調査 西富岡・長竹2遺跡第2次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書78 株式会社パスコ
- 青木雄大・吉田好孝ほか 2018『西富岡・中島2遺跡第2次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書68 大成エンジニアリング株式会社
- 麻生順司・香川達郎・坪田弘子ほか 2014『神成松遺跡第4地点』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書20 株式会社玉川文化財研究所
- 天野賢一・宮坂淳一 2013『上粕屋・石倉中遺跡』かながわ考古学財団調査報告294
- 安藤洋一 2006『伊勢原市の城館』『神奈川の城館跡』 神奈川県教育委員会
- 石丸熙 2002『考察』『成瀬第二地区遺跡群下糟屋C地区第1地点、下糟屋D地区、丸山E地区発掘調査報告書』 成瀬第二地区遺跡調査会、都市基盤整備公団
- 伊勢原市教育委員会 2014『史跡と文化財のまち いせはら』第3版
- 伊勢原市史編集委員会 1995『伊勢原市史6 通史編 先史・古代・中世』 伊勢原市
- 伊勢原市史編集委員会 1999『伊勢原市史9 別編 社寺』 伊勢原市
- 伊勢原市史編集委員会 2019『伊勢原市史 ダイジェスト版』 伊勢原市教育委員会
- 伊藤雅乃・山本典幸ほか 2012『神成松遺跡第2地点』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書7 株式会社パスコ
- 大坪宣雄・碓井三子・田村良照ほか 2014『神成松遺跡第3地点』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書25 株式会社吾妻考古学研究所
- 香川達郎・小林義典ほか 2015『神成松遺跡第7地点』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書30 株式会社玉川文化財研究所
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2009～2020『発掘調査成果発表会資料集』
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2010～2021『年報16～27』
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2018『大山が紡ぐ歴史遺産～東名から新東名～』
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2020『子易・中川原遺跡見学会ミニ講座「大山山麓の中世」資料』
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2021『神成松遺跡第8地点見学会資料』
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2021『子易・中川原遺跡見学会資料』
- 小宮山友康ほか 2013『浄業寺跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告書17 大成エンジニアリング株式会社
- 穴戸信悟ほか 1999『上粕屋・上尾崎遺跡、上粕屋・メ引北遺跡、上粕屋・メ引西遺跡』かながわ考古学財団調査報告56
- 園村維敏・竹内順一・相川薫・山本典幸ほか 2016『上粕屋・和田内遺跡第5次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書47 株式会社パスコ
- 高橋直樹ほか 2016『浄業寺跡第2次調査 三ノ宮・上竹ノ内遺跡』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書38 大成エンジニアリング株式会社
- 土任隆・萩澤太郎ほか 2016『上粕屋・和田内遺跡第2次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書40 国際文化財株式会社
- 土任隆・池内啓ほか 2018『西富岡・中島2遺跡第1次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書67 国際文化財株式会社
- 中村哲也・伊藤貴宏ほか 2017『上粕屋・和田内遺跡第7次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書53 株式会社玉川文化財研究所
- 中村哲也・中山豊ほか 2018『西富岡・中島遺跡』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書61 株式会社玉川文化財研究所
- 松葉崇 2017『大山山麓に広がる中世遺跡』『発掘された中世の姿』平成28年度東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団普及連携事業公開セミナー 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 松葉崇 2017『神奈川県伊勢原市上粕屋・和田内遺跡の石組み遺構』『考古学ジャーナル』693 ニューサイエンス社
- 松葉崇 2017『糟屋館・丸山城』『扇谷上杉氏の城—戦国黎明期に築かれた城郭—』 神奈川県考古学会
- 松葉崇 2017『上粕屋・和田内遺跡の中世石組み遺構—湯屋の可能性を探る—』『第83回日本考古学協会総会研究発表要旨』日本考古学協会
- 三上次男ほか 1979『御伊勢森遺跡(傳上杉定正館址)の調査』 学校法人産業能率大学
- 村松篤・眞鍋早紀 2020『東富岡・南三間遺跡第2次調査、東富岡・北三間遺跡第3次調査、東富岡・東之窪遺跡』かながわ考古学財団調査報告322
- 目七哲史 2009『丸山城について』『上ノ台遺跡』 東海大学校地内遺跡調査委員会
- 柳川清彦・渡辺努ほか 2016『神成松遺跡第9地点』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書51 株式会社アーク・フィールドワークシステム
- 湯浅学 1991『中世伊勢原をめぐる武士たち』 伊勢原市教育委員会
- 脇幸生・中田英 2015『上粕屋・和田内遺跡第3次調査』かながわ考古学財団調査報告308
- 脇幸生・菊川泉 2016『上粕屋・一ノ郷南遺跡 上粕屋・和田内遺跡』かながわ考古学財団調査報告312

## 図版出典

- 第2～5図 『大山が紡ぐ歴史遺産～東名から新東名～』、『年報25～27』、『子易・中川原遺跡見学会ミニ講座「大山山麓の中世」資料』 ※一部加筆
- 第6図 『神成松遺跡第2～4・7・9地点』、『神成松遺跡第8地点見学会資料』、『年報27』 ※一部加筆
- 第7図 『大山が紡ぐ歴史遺産～東名から新東名～』、『子易・中川原遺跡見学会ミニ講座「大山山麓の中世」資料』、『子易・中川原遺跡見学会資料』 ※一部加筆
- 第8図 『第83回日本考古学協会総会研究発表要旨』 ※一部加筆
- 第9図 『東富岡・南三間遺跡第2次調査、東富岡・北三間遺跡第3次調査、東富岡・東之窪遺跡』

## 用語

波板状凹凸面：古墳時代から近世にかけての道路の一部には、円形や楕円形の土坑が一定間隔で並ぶ波板状凹凸面と呼ばれる遺構が残ることがある。それらの性格については、枕木やコロの痕跡、路床の改良、牛馬の歩行痕跡など、いくつかの説が提示されている。

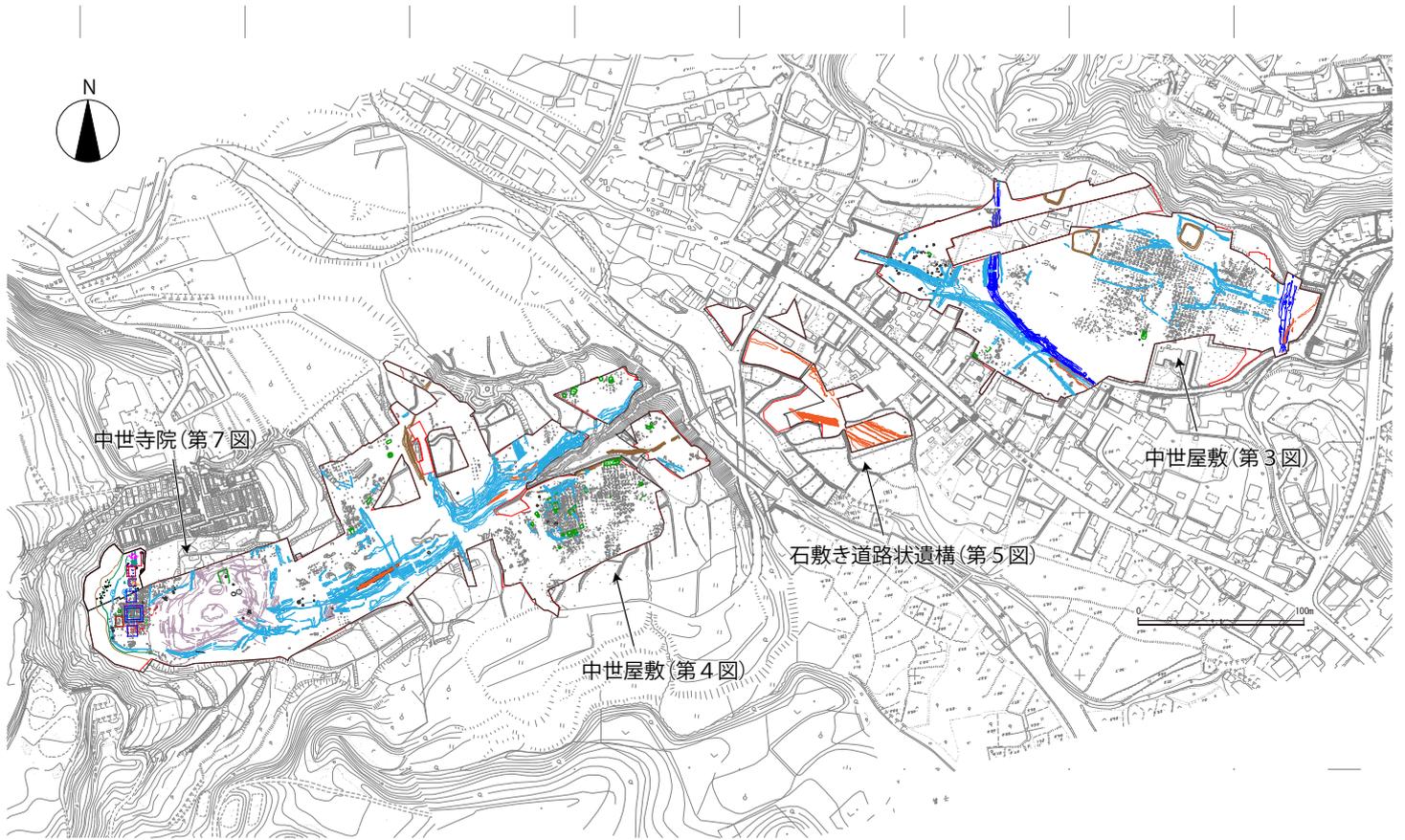
プラント・オパール分析：土壌に含まれる植物珪酸体の含有量を調べ、稲作の有無を検討する分析。植物珪酸体は、イネ科・カヤツリグサ科や羊歯植物の一部・蕨苔植物に多く含まれる。プラント・オパールとは、植物珪酸体が、植物が枯れるなどして土壌中に保存されたものを指す。

湯屋：お風呂。昔は沸かし湯を浴びて垢を落とすところをいう。日本では7世紀末～8世紀初めから確認することができ、身を清めるため、寺院や宮中といった限られた場所に作られた。その後、寺院の福祉事業の一環である「施浴」として、一般にも湯を浴びる風習が広がったという。中世になると、蒸気浴で汗を流す「風呂」が登場し、「湯屋」とは区別していたようだが、やがてどちらも「湯屋」と呼ぶ。



第1図 大山山麓の中世遺跡

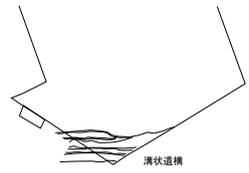
- ① 上粕屋・子易遺跡
- ② 子易・中川原遺跡 子易・大坪遺跡
- ③ 上粕屋・子易 2 遺跡
- ④ 神成松遺跡
- ⑤ 上粕屋・和田内遺跡
- ⑥ 浄業寺跡
- ⑦ 西富岡・向畑遺跡
- ⑧ 栗窪・林台遺跡・栗窪・林遺跡
- ⑨ 東富岡・南三間遺跡・東富岡・北三間遺跡・東富岡・東之窪遺跡
- ⑩ 上粕屋・石倉中遺跡
- ⑪ 西富岡・中島遺跡・西富岡・中島 2 遺跡



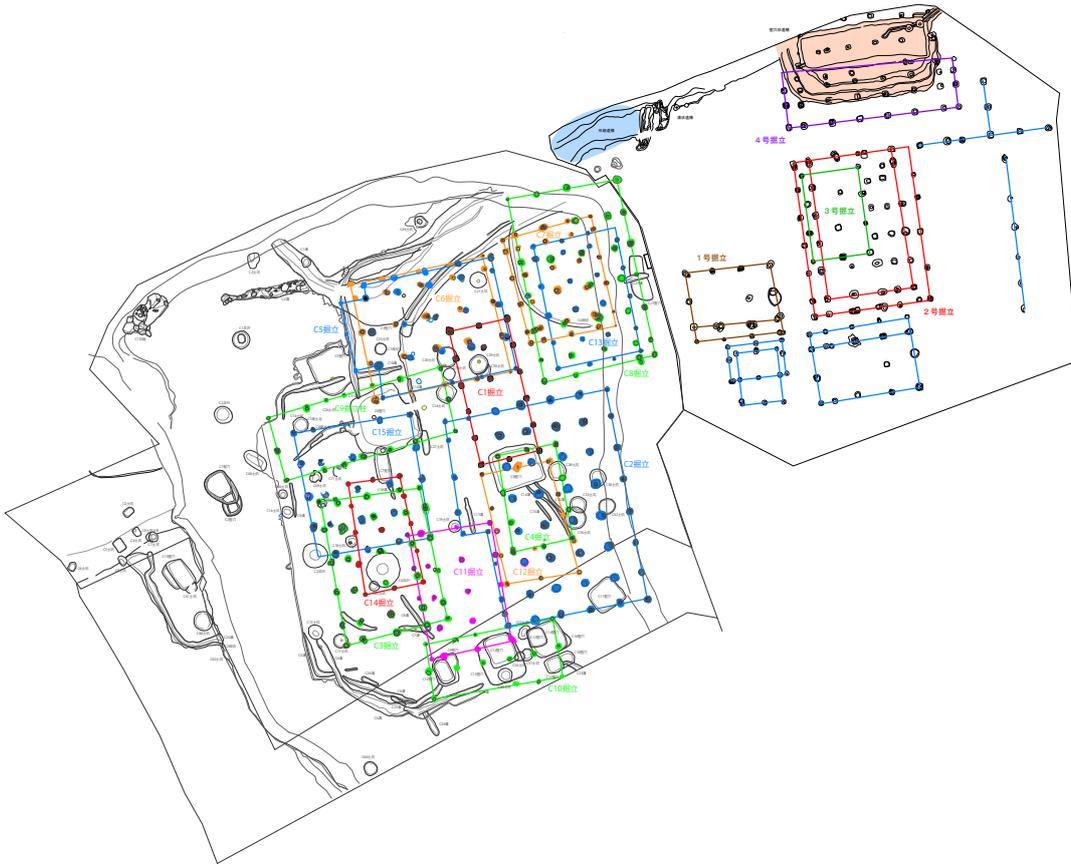
第2図 子易地区の遺跡と調査区配置図



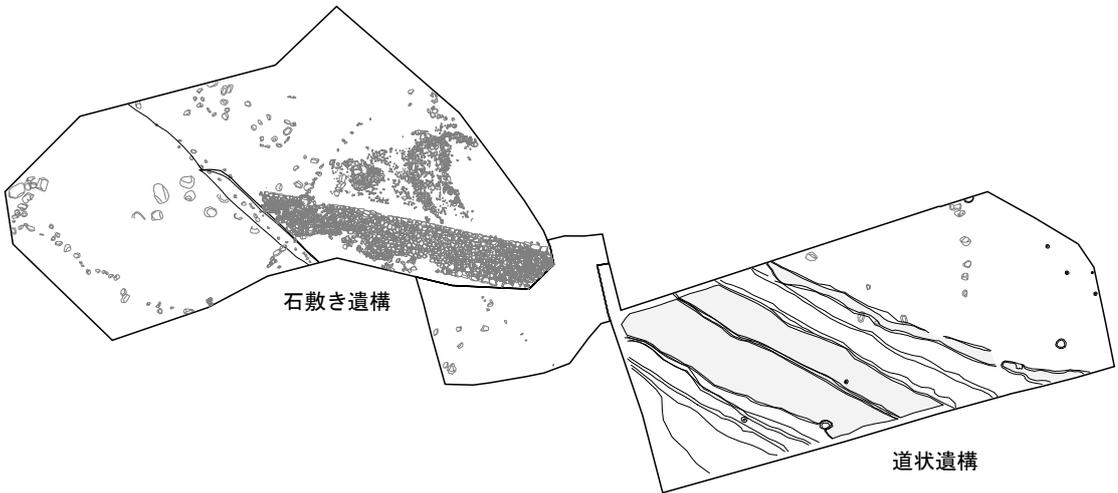
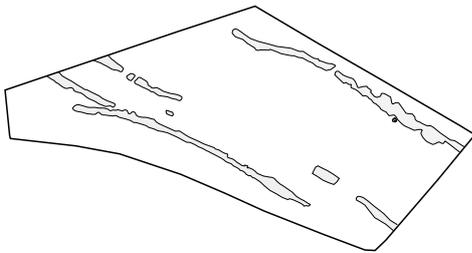
第3図 上粕屋・子易遺跡中世全体図



溝状遺構



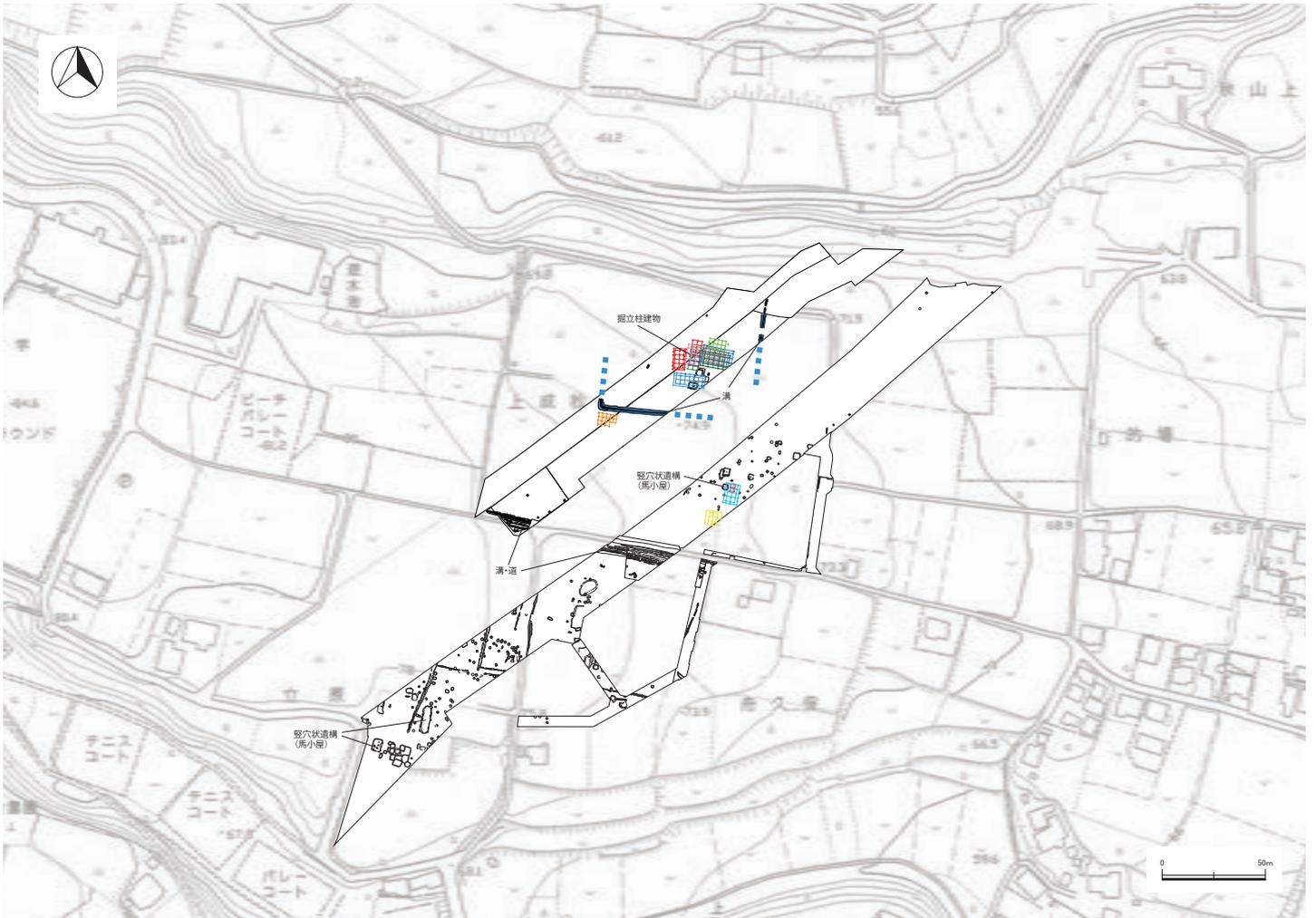
第4図 子易・中川原遺跡中世屋敷主要遺構図



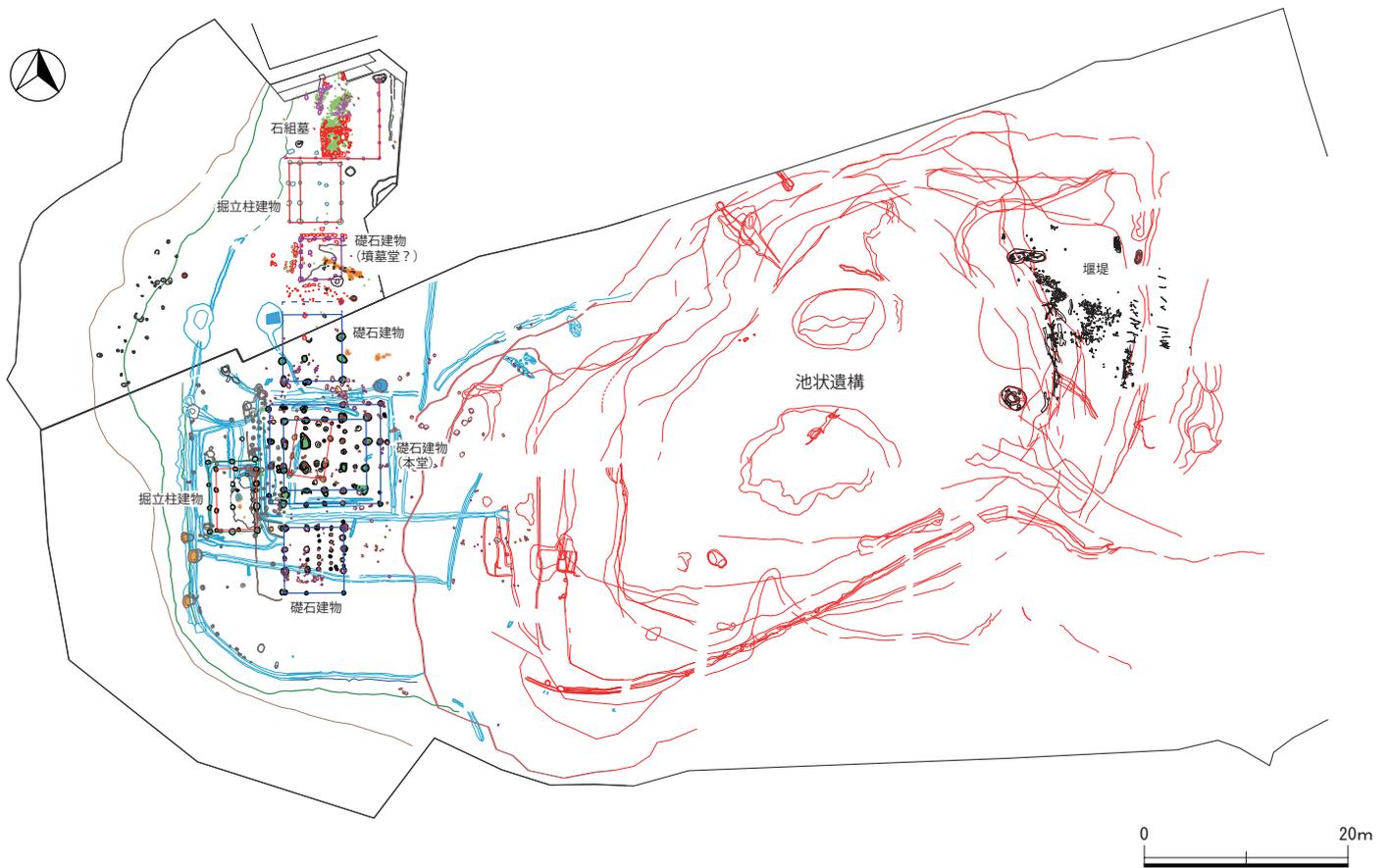
石敷き遺構

道状遺構

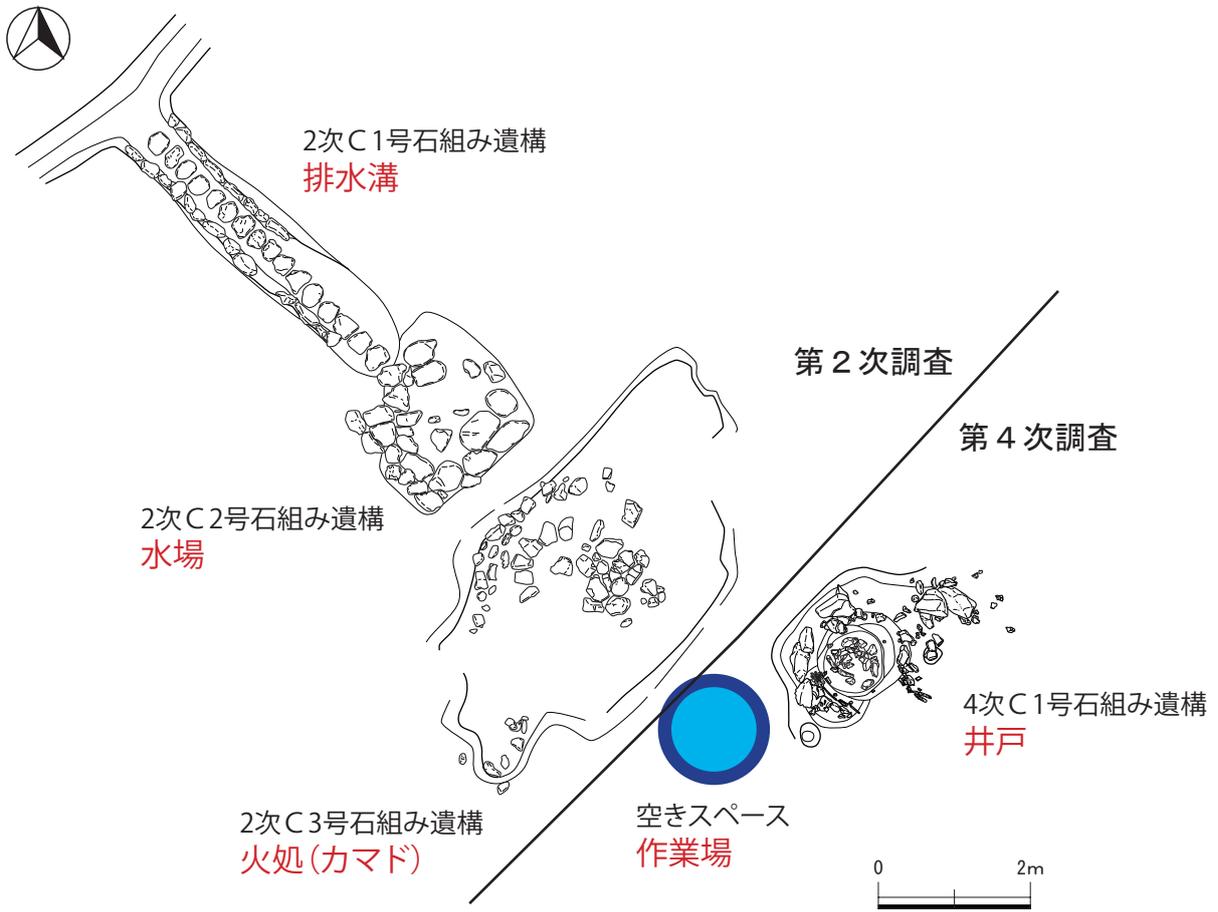
第5図 上粕屋・子易2遺跡石敷き遺構



第6図 神成松遺跡中世全体図（2～4・7～9地点）



第7図 子易・中川原遺跡中世寺院図



第8図 上粕屋・和田内遺跡石組み遺構配置図



第9図 東富岡・南三間遺跡中世遺構配置図